

農業や工業、商業などを学ぶ県内の高校や特別支援学校の生徒らが、学習成果を発表する「えひめ産業教育フェア」が10月3日、松山市湊町7丁目の市総合コミュニティセンターで初めて開かれる。57校が参加予定で、実演・体験や展示販売などに向け、生徒たちは準備を進めている。高校生記者がその姿を取材。2回に分けて報告する。



えひめ産業教育フェアに向けて ① 松工場っちゃん列車

同フェアは2027年10月に開催される「第37回全国産業教育フェア愛媛大会」のプレ大会として、愛媛大会準備委員会と県教育委員会が主催する。

実演・体験は約20を予定。松山工業高（松山市）は来場者に、生徒製作のミニ電車「松工場っちゃん列車」乗車を楽しんでもらう。その名の通り坊っちゃん列車がモデルのミニ電車は、20年に製作を開始し、改良を続けている。25年には東温市の企業「フジコン」と共同で、曲線レールも完成させた。車体は木や亜鉛の板で作られ、手のひらサイズのモーター2個で動く。最大積載量は約200キ、最高時

速は約20キ。イベントでは安全のため、速度を抑えて走行するという。

体験乗車へ着々と改良

部活動としてミニ電車を製作している機械技術部電を伝えたいと準備してお車班の6人が運行。ものつり、班長の西崎匠晴さん



ミニ電車の製作に励む松山工業高生
(撮影＝北宇和高・浅井那樹)

目線

取材班



松工場っちゃん列車が、企業の協力も得ながら進化していることに驚いた。機械技術部員の細部を観察する力や行動力を見習いたい。私も負けない熱量で日々の活動に取り組みようと思った。

(原)

「17」機械科3年「は」モーターのチェーンの緩みをなくすことが現在の一番の課題で、今後、改善していく。多くの方に楽しんでもほしい」と意気込む。

実演・体験はほかに、幻の鉱石ボールペン作り体験（西条高）、ふれあい動物園（野村高）などがある。（東予総合高・佐々木大輔、松山工業高・原田冬琉、矢桵心結）

〈随時掲載します〉

高校生記者の活動は愛媛新聞ONLINEで随時更新。